

小高志

No.7

2016年10月

小高復興デザインセンター



避難指示解除を迎えて

みんなで 力を合わせましょう

小高に 暮らす人へ

- これまで家族で支えてきた買い物や移動を、みんなで支え合う仕組みを考えませんか。
- このまま暮らしていけるか、不安…その不安を解消する備えをはじめませんか。

小高に 暮らしていた人へ

- 仮設住宅からすぐには退去できない…小高との繋がり方を一緒に考えましょう。
- 小高には戻れないけれど、故郷には何か貢献したい! その思いをカタチにしませんか。

小高を 応援する人へ

- ずっと気になってはいたけれど、何も出来ていない… やれること、いっぱいあります!
- 小高とご縁を活かしたい! 小高を第二の故郷にしませんか。



大富のひまわり畑

小高復興デザインセンター開設にあたり ごあいさつ

二〇一六年七月十二日、
居住制限区域・避難指示解除準備区域の
避難指示が解除されました。

小高復興デザインセンターは、
未知の状況に直面している南相馬市小高区において、
実践と探求によって、
小高区を復興するための協働の拠点です。

住民の方々の意思と行政区との連携を大切にしながら、
小高区の将来像を構想し、
帰還者が安心できる生活を支える体制づくり、
被災前とは別の場所で暮らす方や外からの支援者と、
小高区を繋ぐ仕組みづくりを行います。

小高復興デザインセンターは、
南相馬市と東京大学が委託契約を結び、
協働して運営します。

小高に想いを寄せる皆様、
ぜひ一緒に夢を語り、汗を流しませんか。
お声かけいただけるのをお待ちしております。

小高区役所長
安部克己

小高復興デザインセンター
窪田亜矢
(東京大学地域デザイン研究室)

小高復興デザインセンター 開所式

去る七月十六日、開所式を執り行い、小高復興デザインセンターが本格オープンしました。
市議会議員や地域協議会委員、社会福祉協議会会長、常務理事、小高商工会会長、行政区長、住民など、多くの方々にお集まり頂き、ご挨拶をいただきました。



▲高校生グループによる市長インタビュー「市長にとって、復興とは何でしょうか。」



▲東京大学の窪田よりセンターの概要説明



▲汗ばむ陽気の中、60名を超える方々にお集まりいただきました

登壇者のコメント（敬称略・抜粋）

- ▼南相馬市長 桜井勝延
始まりはこれから。みんなで力を合わせ、汗を流そう。そのことが、小高・南相馬を全国に誇れる自治体に変えていくと確信している。
- ▼東京大学教授 窪田亜矢
目的を持ってこれにあたる時、そこに形や道筋をつけるのが「デザイン」の意味。将来像を描き、実践していく。
- ▼市議会総務常任委員会委員長 小川尚一
復興のためには、市民に寄り添い、地域のコミュニティを作っていくことが必要。一人ひとりの考えや思い、生活に必要なものを一つずつ積み上げていく。
- ▼小高行政区長連合会会長 林勝典
解除後も不安で戻れない人が多い。復興には、できることは自らやる意識が必要。センターに集まる知識を借り、戻ろうと思える小高の復興に努めたい。
- ▼社会福祉協議会会長 西浦武義
社協会館がセンターに生まれ変わった。小高・南相馬のまちづくりのシンクタンクとして発信・活動を期待している。
- ▼小高区役所長 安部克己
小高の復興はこれから。みなさんの力を合わせて、一緒に進めていきたい。

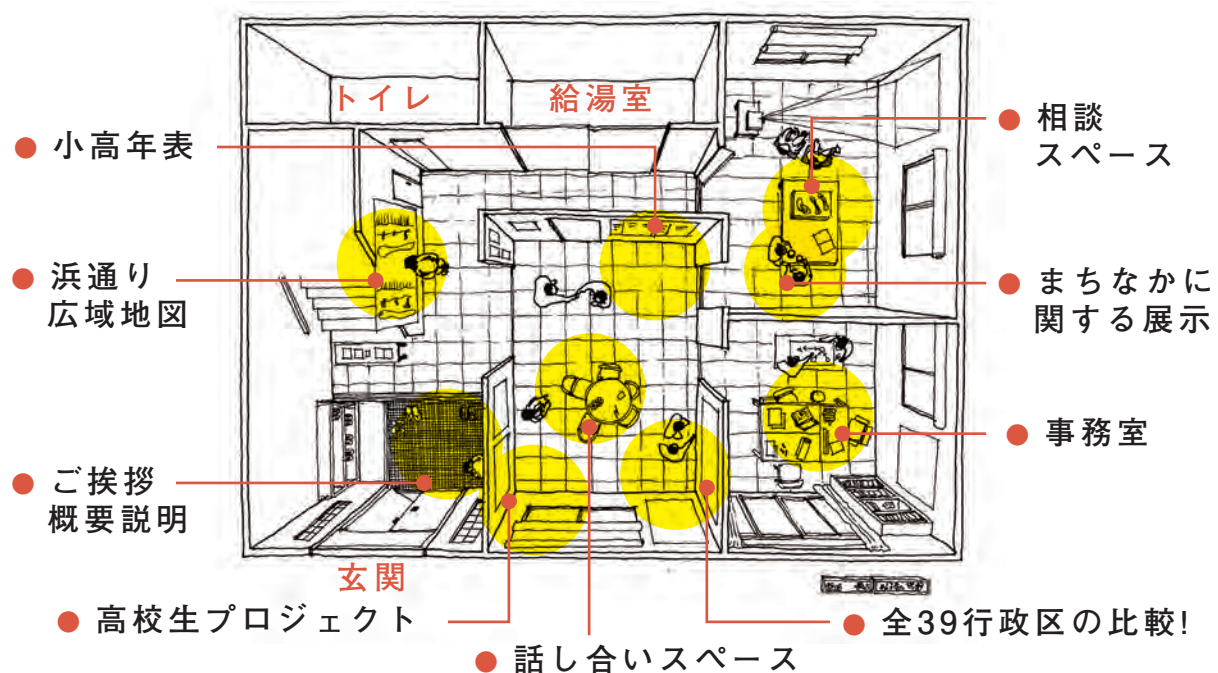
小高復興デザインセンターってどんなところ？



▲会議室の中の様子。心地よい空間です！



▲平日9時～17時開館、どなた様も大歓迎です！



小高復興デザインセンターでは、多主体が小高の復興を考える拠点となるべく、日々活動しています。小高の復興とは以下の三点だと考えています。

- 復興の経験を未来世代に伝える歴史のまちであり続けること
- すべての人がそれぞれの想いをもって関わりを持てるまちになること
- 暮らす場所として選ばれて、住み続けたいなるまちをつくりだすこと

開所して以来、小高で暮らす人や行政区長、支援団体など、様々な方々がお越しくださいました。



▲現在、小高復興デザインセンターの運営に携わるメンバーです。南相馬市小高区地域振興課、東京大学にそれぞれ所属しています。

行政区の集まりにお伺いしました

小高の暮らしを支えるために、行政区は重要な役割を担っています。避難指示が解除となった最初の夏、行政区の集まりにて、皆様の声を伺いました。居住者数の減少、高齢化の中で、地域の維持は共通の課題です。放射能汚染への対応は、特に、西部の行政区にとって非常に深刻です。

当日の様子

● 八月七日 大富座談会

午前中に草刈りを終えた四十名程の方が、大富公会堂に集まりました。

井戸や税金に関する行政への質問の他、センターに対してフレコンバッグの行く末や除染のあるべき姿への提案が求められました。

● 八月十五日 三区懇談会

浮舟文化会館で行われました。現在市が計画中の復興拠点施設が、豊かに使われるための具体的なアイデアをいただきました。

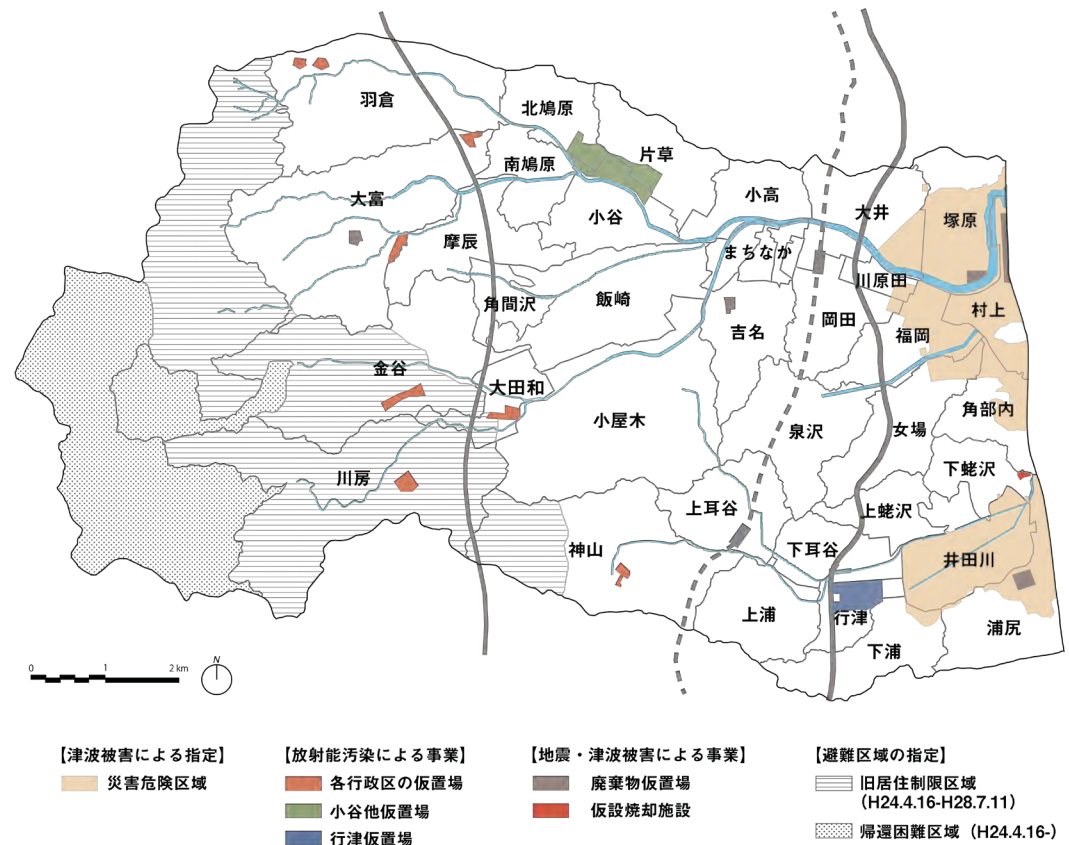
● 八月二十日 吉名懇談会

吉名公会堂で行われました。魅力的な子育て環境や、行政区の法人化等が主な論点でした。最後は皆で写真撮影でした。

● 八月十三日 川房若者の集い

今は帰還しない二十代から五十代が一堂に会し、つながりを維持する重要な機会でした。「本当は帰りたい」という若者たちの思いが印象的でした。

八月に寄せていただいた集まりは以上ですが、話題も雰囲気も、行政区によって大変多様でした。



小高の四季

小高志発刊から一年が過ぎました。私たちが今まで小高で巡り会った、素敵な四季の風景をお届けします。



上浦の桜

春

冬



沿岸部に飛来する白鳥



村上城跡



6年ぶりに復活した火祭り



小高神社の野馬懸

夏

秋



小高のどこかわかりますか？



表紙：上浦の塩の道、裏表紙：小高駅前通り

11月12日(土)浮舟文化会館にて、
高校生による小高区への提案事業
市長への公開プレゼンテーション
が行われます!

活動報告

九月六日(火) 第二回 まちなか部会

小高での生活を再構築するために、中心としてのまちなかの役割が重要です。

空き家・空き地のマネジメント方法や、歴史的建造物の活用など、これからのまちなかを、皆で考えました。

【メンバー】行政区长、住民の方々、小高区地域振興課・産業建設課、南相馬市建築住宅課・文化財課、東京大学

今後の予定

十月十五(土)・十六日(日) 小高思ひ出かふえ

小高に残る歴史ある建物「高島家蔵」を活用して、昔の小高の写真の上映会を開催します。懐かしい写真を見て、お茶を飲みながら思い出話を聞かせてください。

【主催】おだかぶらっとほーむ、まなびあい南相馬、南相馬市教育委員会

小高復興デザインセンター

二〇一六年夏、設立しました。住民・行政・外部をはじめとして、小高とつながりたいみんなが協働し、実践していく場です。

T 979-2124 南相馬市小高区本町 2-89 社協会館
0244-44-5100

<http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/>

<https://www.facebook.com/OdakaRC/>

協力：仲光寛城（ナカミツデザイン）